

Facilities information

施設情報



白河集古苑 (郭内1-73 / ☎②45050)

【利用案内】

- 開館時間 午前9時～午後4時
- 休館日 毎週月曜日
※年末年始(12月28日(木)～1月4日(木))は休館します。
※1月8日(祝)は開館し、翌9日(火)は休館します。
※1月15日(月)～17日(水)は、展示替えのため休館します。
- 入館料 大人320円(250円)
小中高生100円(80円)
※()は20人以上の団体料金
※毎週土曜日は小中高生入館無料

【催し案内】

- 会期 1月14日(日)まで

◇企画展

「美術でつくる動植物園」

※会期中、市指定文化財「繪本 著色仏涅槃図」(谷文晁筆)を公開します。



谷文晁筆 仏涅槃図
(大統寺蔵、白河市歴史民俗資料館寄託)

- 会期 1月18日(木)から

◇結城家古文書館

「重要文化財 白河結城家文書と中世の美術」
ミニテーマ展

「江戸時代の結城家—結城家のその後—」

◇阿部家名品館

「伝来の遺宝と武家の装い」

特集展示

「江戸時代の小峰城」

※会期中、市指定文化財「奥州白河城下全図」を公開します。



奥州白河城下全図
(白河市歴史民俗資料館蔵)

歴史民俗資料館 (中田7-1 / ☎⑦2310)

【利用案内】

- 開館時間 午前9時～午後4時
- 休館日 毎週月曜日
※年末年始(12月28日(木)～1月4日(木))は休館します。
※1月8日(祝)は開館し、翌9日(火)は休館します。

- 入館料 無料

【催し案内】

◇平常展示「白河の歴史と文化」

中山義秀記念文学館 (大信町屋字沢田25 / ☎④3614)

【利用案内】

- 開館時間 午前10時～午後6時
※土・日・祝日は午後5時まで
- 休館日 毎週月曜日、祝日の翌日
※金曜日が祝日の場合はその前日
※年末年始(12月29日(金)～1月3日(水))は休館します。

- 入館料 大人200円/小中学生100円

【催し案内】

- 会期 2月12日(月)まで

◇テーマ展「義秀小説原稿にみる書風変せん」

ひじりん館 (大信増見字北田76-1 / ☎④3500)

【催し案内】

◇団子さしの展示

- 日時 1月11日(木)～19日(金)/午前9時～午後6時

◇節分大売出し

- 日時 2月3日(土)・4日(日)/午前9時～午後6時



マイタウン白河 (本町2 / ☎③7595)

- 休業期間 12月28日(木)～1月4日(木)

【催し案内】

◇刑務所作業製品展示即売会

- 日時 1月17日(水)～19日(金)/午前10時～午後3時 ※19日のみ午後2時まで

【おわびと訂正】

広報しらかわ12月号18ページ「施設情報」で団体名に誤りがありましたので、おわびして訂正します。

(正) 写友「景」 (誤) 写友「京」

《話題のコーディネーショントレーニング》

脳科学などに基づき学習能力を高める徳島大学 荒木秀夫教授の理論による運動で、NHKの「ガッテン!」や「サキどり↑」をはじめ、「ワールドビジネスサテライト」や新聞の全国紙でもたびたび取り上げられている、今注目の運動です!

東京都では、全ての公立幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校の約2,400校で導入され、体力向上を図っています。また、福岡県嘉麻市では、乳児から高齢者まで生活能力の向上や優れた人材の育成を目的として導入し、市の活性化を目指しています。

《白河市での取り組み》

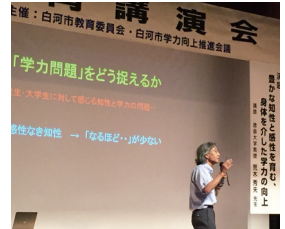
市では、この理論に基づいて、子どもたちの体力・運動能力の向上だけでなく、知性の発達、情緒の安定や創造性豊かな人間形成を目指し取り組んでいます。この先進的な取り組みにより、子

どもたちが本来持っている能力を引き出し、知性と感性を育て伸ばすことで、誰もが希望に満ちた健康な人生を送る資質や能力を育成することができる学校づくりを目指します。

そして、このプロジェクトを学校だけではなく市全体へ広げて、健康な地域づくりにつなげるため、活動内容を紹介していきます。



▲指導を行う荒木教授



▲市教育委員会の講演会

★次回「子どもに対する効果」をご紹介します。

本庁舎学校教育課 内2365

小林家は、初代小林新右衛門の時、藩主丹羽長重に瓦師として召し抱えられ、代々小峰城に用いる瓦を製作してきたとされる瓦職人の家系です。寛左衛門は8代目にあたり、藩主松平定信の時代に活躍した人物です。

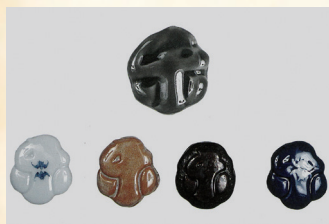
《作陶技術を学ぶ》

寛左衛門の生没年は不詳ですが、寛政元年(1789)に瓦方見習として勤め始め、2年後に瓦師となります。定信は、藩の産業振興の一環として、藩窯による陶器製作を企図しました。寛左衛門は寛政6年より陶器修行を命じられ、各地を巡りながら瀬戸焼、楽焼、信楽焼、京焼など著名な焼き物の技法を学びました。こうして寛左衛門は、瓦作成の傍ら陶器職人としても力を発揮していきます。



小林寛左衛門像(個人蔵・白河市歴史民俗資料館寄託) 明治12年(1879)に製作された陶製の像です。

シリーズで学ぶ
白河歴史人物伝
小林寛左衛門
(生没年不詳)
白河焼を創始した小峰城の瓦職人
Vol.21



楽字香合(桑名市博物館蔵) 「楽」の字をかたどった香合(香などを入れるフタ付の容器)で、上1点が青木木米の作品、下4点が寛左衛門による写しです。

《幻の「白河焼」》

寛左衛門の創始した「白河焼」は、現在その技術は途絶えており、文字通り幻の焼き物となっています。しかし、数少ない現存作品を見ると、その質の高さが窺えます。

「楽字香合」は、もとは定信が京都の名工であった青木木米に作らせたものです。定信は、木米の作品は十分な出来でないとして、寛左衛門に写し(模作)の製作を命じました。さらに「木米のものより今少し青くせよ」「呉須(染料)に用いるコバルトブルーの釉薬」のつやが悪いため、もう少し南京焼(中国製の染付)に似せよ」など、作品の詳細な仕様についても指示しており、文化人としての定信のこだわりが垣間見えます。

白河焼は、藩内の日用品のほか、將軍への献上品にも用いられるようになりました。寛左衛門の技術が藩の産業に寄与したといえます。

文化財課 ☎ 2310